

# 暮らしの水をつくる、送る、守る



### 日本一の施設能力を誇る村野浄水場

大阪広域水道企業団は、府内全域（大阪市を除く）における総使用水量の約7割の水道用水を供給しており、市町村が各家庭・学校・企業等に水道水を提供しています。このうち、村野浄水場は、企業団が供給する水道水の約8割を担っており、日本最大の施設能力（給水能力：1,797,000m<sup>3</sup>/日）を有する浄水場です。また、限られた敷地を有効利用するため浄水施設を立体的に配置した、世界でも珍しい階層系浄水施設があるのも特徴の一つです。そして、従来の浄水処理に加え、オゾン処理や粒状活性炭処理等の高度浄水処理を行っていることから、安全でおいしく、安心して飲める水道水を作り出せるのだそうです。その水（災害用備蓄水）を一口飲んでみると、さらっとした口当たりの良さにびっくりしました。



階層系浄水施設



オゾン発生器

水資源機構が多くの施設を管理する水系のひとつ、淀川は日本最大の湖である琵琶湖を水源にもち、宇治川や桂川、木津川など多くの支川を合わせて大阪湾に注いでいます。その流域は近畿2府4県にまたがり、大阪、京都の2大都市をはじめ数多くの都市が発達しており、約1,400万人の人口を抱える地域です。今回は、その淀川を水源に、暮らしに欠かすことのできない『水』を、大阪府内の42市町村に供給している大阪広域水道企業団村野浄水場長松本様に、安全で良質な水を届けるためのさまざまな取り組みについてお話を伺いました。

## 浄水管理センターは 24 時間集中管理

村野浄水場内の浄水管理センターでは、常に安全でおいしい水を府民のみなさまにお届けできるよう、水量、水質、薬品注入量等の情報が 24 時間集中管理されています。

ここでは監視制御システムによって、急激な原水水質の変動や処理水量の変化に適応した薬品注入量が制御されています。また、2 交代 6 名体制で職員による厳しい管理が徹底されており、何か異常が察知されれば迅速な対応が行えるよう体制が整備されているとのこと。また、『コイセンサー』\*1 や『ゆうきセンサー』\*2 による水質異常を感知するシステムに加え、熟練した職員の視覚・嗅覚も活用するなど、二重三重の監視・制御体制をとっています。

そんな大変な仕事について松本場長は、「とても大変な仕事ではありますが、府民の皆様のご生活や産業を支えているのだという充実感があります」と語ってくれました。



浄水管理センター監視業務の状況

## さまざまな災害対策で府民の暮らしを守る

大阪広域水道企業団では、災害時にも最低限の生活に必要な水を確保するために、さまざまな対策を取り入れています。設備の二重化や分散化、非常用発電機による非常事態への対応、万が一給水が途絶えた時に対応するための災害用備蓄水（アルミボトル缶）の備蓄や給水活動を支援するための拠点給水設備（府内 540 か所）の設置など、災害に強い水道を目指しているとのこと。

### 拠点給水設備 （あんしん給水栓）



災害時に市町村水道の給水活動を支援するための設備（府内 540 か所に設置）

### 災害時支援協力 （水道あしすと）



拠点給水施設での応急給水の補助や水道施設の被害情報収集を行うボランティア団体

## 災害支援などへの取り組みで社会貢献

大阪広域水道企業団では、東日本大震災における水道施設の復旧・復興への支援や、タイ王国における洪水被害への緊急援助隊専門家チームとして職員を派遣するなど幅広く社会貢献をされています。

また、「浄水場施設見学会」や「出かける浄水場（出前講座）」「場内開放イベント（来て見て体験 in 村野浄水場 11 月）」などにより、小学生や一般の方々に水の大切さを理解してもらうための取り組みなども行っているそうです。

## 自然からの恵み「水」を大切に

「確かに浄水場で高度浄水処理された水は、市販のペットボトルの水と遜色ないほどおいしくなります。しかし、忘れてはいけないことは、「水」は自然からの恵みであり、河川から届けられる水の恵みをもっと大切にすること、守ることが大事なのです」と松本場長はおっしゃっています。蛇口をひねればいつも出てくる水道水ですが、こうした浄水場での取り組みに感謝し、私たちも自然の恵みをもっと大切にしていけることが大事だと感じました。



大阪広域水道企業団様のホームページでは、「水」をつくり・送り・守るためのさまざまな取り組みなどが紹介されています。是非ご覧ください。

<http://www.wsa-osaka.jp/>

### ※1「コイセンサー」

原水の水質に異常があった場合、鯉が逃げる習性を利用した監視装置で、連続した 5 個の水槽を常時カメラで撮影し、映像の画像処理により、異常な行動を判別することで自動的に警報を発する装置

### ※2「ゆうきセンサー」

原水中の有害物質の自動連続監視装置で、水道水の水質基準項目を含む 24 項目を常時連続で測定し、一定の基準値を超えると警報を発する装置

## 読者プレゼント

「災害用備蓄水 490ml  
ボトル 1 ケース  
24 本入り」5 名様



村野浄水場 松本場長

今回取材にご協力いただいた村野浄水場より読者の方 5 名にプレゼントをいただきました。

ご希望の方は、①ご住所、②お名前、③性別、④年齢、⑤電話番号、⑥このコーナーの感想を記入の上、ハガキにて下記までお申し込み下さい。

■宛先 〒330-6008 さいたま市中央区新都心 11 番地 2  
独立行政法人水資源機構広報課 広報誌係

■応募締切 平成 26 年 3 月 31 日（月）（当日消印有効）

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。  
いただいた個人情報の目的外利用はいたしません。